

発行所

静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

第479号
2022年
7月16日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

あなたも高教組へ

2面 エバーグリーン藤枝
満蒙开拓平和記念館訪問



生活と労働の実態に
ふさわしい公務員賃金を
人事委員会・人事院へ要請書提出



静岡県人事委員会へ要請書を提出 (7月4日)

静岡県公務員公共業務労働組合共闘会議(議長は高教組の深田祐文)は、自治労連、国公労連、全教静岡と共に、7月4日に、静岡県人事委員会へ、7月5日には、人事院中部事務所(名古屋)に「人事院勧告にあたっての要請書」を提出しました。

コロナ禍や自然災害のなかで奮闘しているエッセンシャルワーカーや公務員の重要性が再確認されるときにも、要員不足もあきらかになりました。

この労苦に報いる大幅な賃金の引き上げ・待遇改善、特に民間より低い初任給、会計年度任用職員の待遇、勤勉手当の支給、再任用職員の給与向上などの改善を求めました。

また、定年引上げに関する①国が示す「7割水準の給与」ではなく、「同一労働同一賃金」にすることを、②新規採用を抑制しないこと、③経験や熟練、専門性をいかした多様な働き方の保障、④多忙解消のために業務

定数増が急務
教職員組合からは、現場の実態を示し、次のような要請をしました。

「教員の多忙は深刻、業務に見合った人員の配置が急務である。根本的には生徒数・学級数によって教員数を決める定数の改善が必要だが、そもそもその定数さえ満た

8月10日前後と想定される校舎のままの学校もあり、雨漏りや網戸のない窓も当たり前。児童生徒自の要求書を提出し、9月を中心6回程度の交渉を行い、

いまだに昭和に建てられた校舎のままの学校もあり、雨漏りや網戸のない窓も当たり前。児童生徒自の要求書を提出し、9月を中心6回程度の交渉を行い、

環境調査などにより多忙化が加速しています。現場は混乱
保護者負担(BYOD)を打ち出した後に、急遽1万2千台追加購入?各校3分の1分の端末があれば、生徒一人ひとり

はどうか。令和3年3月に文科科学省から示された「ICTの活用」に当たっての児童生徒の目の健康などに関する配慮事項」などにより十分に配慮する」と回答。

さらに教育長は、「私も大学の教員として現場はICT導入準備

「私立高校における一人一台端末の整備」に疑問
みなさんの声をお寄せください

マホを持つている現在、それで足りるはず。タブレット購入をしなくてはならない理由が私にはどうしても納得いきません。県からは、タブレットの仕様例が示されているだけで、スマホではない理由が明確に示されていません。不必要な出費

みなさんか
賛成か反対か、その理由なども含めて

声をお寄せください。この紙面のQRコードからアンケートページに移行できます。より多くの意見を集めたいと思います。県教委、国に要

求を届けます。
(島田地区
高校教員)

産休育休の代替教員も補充されることが多く、現場には大きな負担となり、妊娠や出産を後ろめた

特別支援学校で困っていること
7月24日の静岡県母親大会で訴え

6月11日に静岡高教組障害児学校の総会を開催し、母親大会に、特別支援学校からの訴えを録画しました。

施設設備が貧弱
本県の予算規模は全国7、8位なのですが、特別支援教育にかかる教育予算は、この10年以上全国で最下位です。その影響は特別支援学校の過密大規模校化と教員不足に現

います。
いまだに昭和に建てられた校舎のままの学校もあり、雨漏りや網戸のない窓も当たり前。児童生徒自の要求書を提出し、9月を中心6回程度の交渉を行い、

今年度は電気料金の値上がりで学校経営予算を圧迫するからと、エアコンの利用が制限されがち。労働環境衛生法でも、学校保健安全法でも、室温17度から28度までと定めています。エアコンの設定温度ではありませ室温です。

子どもの命にもかかわる問題です。
人手不足が深刻
さらに教員不足が深刻です。長い間、教員の定数の2割近くを安あがりに臨時講師で埋めてきました。教員定数を満たさない状況で、本務職員に負担が掛かり、激務と多忙による病気やけがで特別休暇を取る人もたくさんいます。

産休育休の代替教員も補充されることが多く、現場には大きな負担となり、妊娠や出産を後ろめた

感じる雰囲気です。
そのため、希望を持って教職を目指す人が激減しています。

さらに、県教委は「研修」と称して初任10年で3校を経験させようとする人事異動を強行している。現場の負担とならば、専門性や経験が継承されず、若手が育ちにくくなっています。これでは地域の特別支援教育のセクター的役割を果たせるはずありません。

管理職もなり手が不足し、2、3年で異動してしまふ。また、促成栽培のように昇進した不適当な管理職が無責任な学校経営を行うため、展望のない教育機関になりつつあります。
全ての諸悪の根源は、教育にお金をかけない日本の縮図的な静岡県の施策にあると思われれます。

私たち静岡高教組は、教育長交渉や特別支援教育課への要請行動で改善を粘り強く要求しています。

石の上にも三年、とは言いますが、現在、石の上にも三年もいたら別世界。スマホなど三年も使えば機種変更する人がほとんど。そのスマホも、中身はアップデートされ変わり続ける。今の自分も、常に二年前には想像もできなかった自分。そして、二年後の自分も予想できない時代。学校の常識は世間の非常識、これもよく聞く言葉。世間ではAという方法がダメならB、それがダメなら次はCと方法を変えます。これが科学。ところが、学校ではAがダメでも、再びA。再びダメでも、再度A。さらにダメならA、それでもダメなら徹りずA。A。進歩なき繰り返しを「伝統」と勘違いすることも多々。さて、令和版「アリとキリギリス」。夏、アリはマジメに働きエサを貯めます。キリギリスは歌を聴いて踊って芸を磨きます。冬、人生の楽しみ方を学んでないアリ、自分だけでなくまわりも楽しませるキリギリス。アリはキリギリスを巣に招き、エサを上げるかわりに、歌と踊りで楽しませてもらい、ウィンウィンとカメ。競争で、ウサギは、カメに大差をつけ、ゴール直前で休み、そこでウトウト。歩みは遅くともコツコツ前に進むカメ。いよいよカメが眠っているウサギを追い越そうとした時、ウサギのスマホのアラームが鳴り、目を覚まし、すぐにゴールイン。▼童話もアップデートされたアリのようにマジメカメのようにコツコツだけは、今では怠惰にも。自分の頭で考えず、自分の言葉で語らず、ただ上に従い、まわりに同調。実は、こちらの方が楽かもしれません。▼時代は常に変わり、高教組もアップデートを迫られる今の時代、これだけは変わりません。教え子子を再び戦場に送るな

視座

石の上にも三年、とは言いますが、現在、石の上にも三年もいたら別世界。スマホなど三年も使えば機種変更する人がほとんど。そのスマホも、中身はアップデートされ変わり続ける。今の自分も、常に二年前には想像もできなかった自分。そして、二年後の自分も予想できない時代。学校の常識は世間の非常識、これもよく聞く言葉。世間ではAという方法がダメならB、それがダメなら次はCと方法を変えます。これが科学。ところが、学校ではAがダメでも、再びA。再びダメでも、再度A。さらにダメならA、それでもダメなら徹りずA。A。進歩なき繰り返しを「伝統」と勘違いすることも多々。さて、令和版「アリとキリギリス」。夏、アリはマジメに働きエサを貯めます。キリギリスは歌を聴いて踊って芸を磨きます。冬、人生の楽しみ方を学んでないアリ、自分だけでなくまわりも楽しませるキリギリス。アリはキリギリスを巣に招き、エサを上げるかわりに、歌と踊りで楽しませてもらい、ウィンウィンとカメ。競争で、ウサギは、カメに大差をつけ、ゴール直前で休み、そこでウトウト。歩みは遅くともコツコツ前に進むカメ。いよいよカメが眠っているウサギを追い越そうとした時、ウサギのスマホのアラームが鳴り、目を覚まし、すぐにゴールイン。▼童話もアップデートされたアリのようにマジメカメのようにコツコツだけは、今では怠惰にも。自分の頭で考えず、自分の言葉で語らず、ただ上に従い、まわりに同調。実は、こちらの方が楽かもしれません。▼時代は常に変わり、高教組もアップデートを迫られる今の時代、これだけは変わりません。教え子子を再び戦場に送るな

歴史に学び、今を見つめ、未来をつくる 同じ過ちをくりかえさないために

—第10回エバーグリーン平和をつくる旅 満蒙開拓平和記念館への旅—



7月10日(日)、第10回エバーグリーン「平和をつくる旅」で、長野県阿智村にある満蒙開拓平和記念館と中国残留孤児の父・山本慈昭さんの長岳寺を訪れました。参加者は高校生10名を含む27名でした。

示館「ひとみ座」、埼玉の「原爆の図 丸木美術館」、「山梨平和ミュージアム」を訪れました。また、2011年からは、焼津平和賞を受賞した高知県の「幡多ゼミナール」との交流が始まり、高知、福島の高校生と共に、2012年「韓国平和の旅」、13年、14年には、「平和をつくる旅」核被災に向き合う青年・学生の集いに参加、福島の被災地を訪れました。



なせ、このように...
そして戦後77年のこの春、「満蒙開拓とは何だったのか」記録なき歴史を学ぶ。佐野陽子さんのお話を聴く会を藤枝で開催しました。国策に振り回され満蒙開拓に夢を託して満州へ渡った27万人が、敗戦で国から見捨てられ、逃避行を強いられ、爆撃、虐殺、飢餓、自決、伝染病で多くの命や家族を失った記録なき歴史を伺い、大きな衝撃を受けました。

何故このようなことが起きてしまったのか、二度返さないために、自分には何ができるのだろうか。その問いを深めるために、満蒙開拓平和記念館と残留孤児捜しに生涯を捧げた山本慈昭元住職の長岳寺を皆で訪ねようというのが今回の旅の始まりで



伝える責任
広島出身のスタッフ三沢重紀さんは、目に見える戦禍のない長野に、実は多くの満蒙開拓団を送りだした長野の人たちもこの歴史を案外知らないことに衝撃を受け、伝える責任を感じたと語ります。

日露戦争後、朝鮮併合、満州へも利権を拡大して植民地化し、関東軍設立。世界恐慌で生糸価格が暴落、長野の主産業であった養蚕業も大打撃を受け深刻な貧困化。1931年満州事変を起して傀儡国家建設、非難する国際連盟を脱退、日本は孤立していく。

その中で国策として「満州に行けば20町歩の地主になれる」と開拓団を募集。貧窮した長野県民が村単位で移住するが、実は開拓という名の侵略だった。そしてその後の悲惨な逃避行。



だまされなかったために
帰りのバスの中で、感想を語り合いました。「知らなかった。何故、教科書に載らないのか」「私の知識は満州事変どまり。このことを多くの人に知ってもらいたい」

「戦争に行った曾祖父の日記が最近見つかった。これを機に戦争、平和について考えてみたい」

「貧困は人間の理性を奪う。どうしたら貧困のもたらす憎しみや戦争を避けられるか」

「壮絶な帰還の後もなお、差別や不当な扱いを受けたという理不尽。一体、国とは何か」

「教え子を戦地に送り出した教師の責任も問われるのでは」

「満州に行くことを勧めた人も多しこの地によくぞこの平和記念館をつくってくれたと思う」

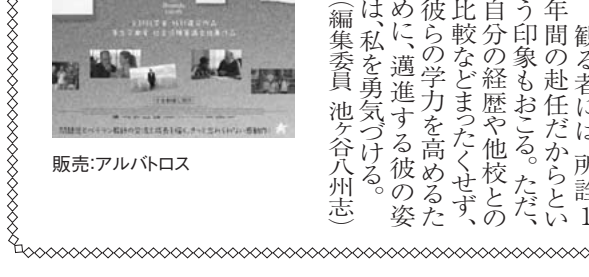
「渦巻く情報、同調圧力の中で、どうやって正しい情報を掴み、見極めたらよいか」

「だます人がいて、そして、だまされる人がいて戦争は起る」

「だまされなかったために、自分で正しい情報を得る必要がある」

「勉強や仕事も、仕方なくやらねばならないことと考えていたのでは、だまされやすい人になってしまいう。学校での学び方も」

(榛原高校 山口良二)



「負の遺産」を「正の遺産」へと置き換えていくこと、その英知が私たちに問われています。

歴史に学び、今を見つめ、未来をつくる。同じ過ちをくりかえさないために、平和な社会を築くために、私には何ができるのか、あらためて問い続けたいと思います。

(榛原高校 山口良二)

率先した責任を問われ、「仕方がなかった」と開き直る人もいたが、多くは居づらくなり離村、差別を受けた人もいたという。「もし自分がその時代に生きていたらどうしたか」という問いが浮かびます。

「序章」から「平和の未来へ」と時系列に辿る8つの展示室を見学。若いスタッフが控え、質問に直ぐに答えてくれます。コロナ禍で増えたという修学旅行生たちの感謝の言葉が印象的でした。

その後、記念館の裏手にある長岳寺へ。映画に登壇する望郷の鐘や山本慈昭さんの胸像があり、映画のシーンが次々と浮かんできます。

問われる
記念館の最後の展示室に、「未来に向かつて」という文が掲げられています。

あの時代に問いかけてみます。なぜ、「満州」へ行ったのですか。

今を生きるあなたに問いかけてみます。あの時代に生きていたら、どうしますか。

日本と中国双方の人々に多くの犠牲を出した「満蒙開拓」とは何だったのでしょうか。

長く人々の心の奥に閉ざされていた記憶に寄り添い、向き合っていく、真実に目を向ける時がきました。

この歴史から何を学ぶのか、私たちは問われています。

「負の遺産」を「正の遺産」へと置き換えていくこと、その英知が私たちに問われています。

歴史に学び、今を見つめ、未来をつくる。同じ過ちをくりかえさないために、平和な社会を築くために、私には何ができるのか、あらためて問い続けたいと思います。

(榛原高校 山口良二)

監督オリヴィエ・アヤシユルヴィタル
2017年 フランス映画

パリのアンリ4世高校のフランス語(国語)の教員フランソワは、あるパーティーで、教育省の若い女性職員に持論を展開した。郊外にある貧困層の子どもたちが通う学校にこそベテラン教員を送るべきだと。ある日あの女性職員から電話があり、ランチに誘われる。フランソワは有頂天になるが、ランチは教育省の官房長とのもの。そのあと官房長は、彼にぜひそのような学校に赴任してほしいと要請する。彼は予想外の提案でかなり動揺するが、彼のブライドはその要請を受け入れる。

赴任校はバルバラ中学校、そこは多様な人種・民族にルーツを持つ生徒たちがいる。また、授業態度もまちまちで、一旦授業で誰かが羽目を外すと、収集がつかなくなる場合も。ただ、1980年代の日本の高校よりはマシという感じだ。教員の言葉に彼らは反応するし、席にも着いている。最初フランソワが読む文を書き取りさせる授業が成り立つ程度。経験のあるフランソワにとっしてお手上げ状態ではない。しかし、彼らの学力は低く、問題行動も多

物語は多様な構造に

観る者には、所詮1年間の赴任だからという印象もおこる。ただ、自分の経歴や他校との比較などまったくせず、彼らの学力を高めるために、邁進する彼の姿は私を勇気づける。

(編集委員 池ヶ谷八州志)

「12か月の未来」
販売:アルパトロス

「12か月の未来」
販売:アルパトロス

「12か月の未来」
販売:アルパトロス

「12か月の未来」
販売:アルパトロス

「12か月の未来」
販売:アルパトロス

「12か月の未来」
販売:アルパトロス

「12か月の未来」
販売:アルパトロス